

(6) 最終評価まとめ

すべての市民が健康で自分らしく生きる

評価

(評価指標)

市民意識調査

- ・「自分の健康状態がよい」と考える市民の割合は78%
- ・目標値は達成

健康を自覚できる人の増加

世代ごとの目標

子供の健やかな成長

特に注目すべき課題・成果

- ・子供が毎日朝食を摂る割合は、児童は変化なし、生徒は改善した。
- ・外遊びをする幼児の割合は策定時より減少
- ・う歯の状況は大きく改善

栄養成分表示の店 増加

若い世代の健康的な生活習慣への改善

特に注目すべき課題・成果

- ・20~30代の朝食を食べない割合は増加し悪化した。
- ・ストレスを感じる割合は30代がピークで20~40代が高かった。

働き盛りの中核世代の健康増進

特に注目すべき課題・成果

- ・ストレスを解消できている割合は男女とも40代が最も低い。男性50代では10年間で減少。
- ・事業所での禁煙整備すすんだ
- ・眠るために飲酒をする割合は男性50~60代で高い。

元気な高齢者の増加

介護を必要とする人の増加抑制

特に注目すべき課題・成果

- ・定期的な運動習慣がある60代の割合は高い。
- ・6024(60歳代で24本以上の歯がある)割合は増加

特に注目すべき課題・成果

- ・若い世代(20~30代)の朝食欠食の割合高く、中間時以降悪化した。
- ・栄養成分表示利用する割合は増加。ただし男性は女性の半分の利用率である。
- ・食生活について学ぶ機会は変化なし。

特に注目すべき課題・成果

- ・定期的に運動している割合は増加。なおその割合は低い。

特に注目すべき課題・成果

- ・ストレスを感じる割合は中間評価時増加し(悪化)、その後変化なかった。
- ・ストレスの相談先を持つ割合は中間時より増加。ただし男女差が大きく、男性の相談先が無い割合が高い。
- ・事業所での取り組みは増加したが、まだ1~2割と少ない。

生活習慣病予防に必要な6分野

評価

(評価指標)

アンケート
栄養成分表示の店数
禁煙分煙施設数
各種統計

栄養・食生活

身体活動・運動

休養・こころの健康づくり

たばこ

アルコール

歯の健康

特に注目すべき課題・成果

- ・男性の喫煙率は著明に減少
- ・女性の喫煙率は50代以外は減少した。
- ・男女とも喫煙者の半数以上が禁煙意思あり。中間評価時と比較しても増加した。
- ・ニコチンパッチの保険適用の認知度は増加したが、まだその割合は低い。
- ・受動喫煙防止、禁煙の環境づくりは整備が進んでいる。(事業所、飲食店の禁煙分煙実施)

禁煙分煙認定施設

医療機関、コンビニを中心に増加

特に注目すべき課題・成果

- ・多量飲酒者は変化なし
- ・妊婦の飲酒は大幅に減少

特に注目すべき課題・成果

- ・歯の健康に関する習慣は改善
- ・6024(60歳代で24本以上の歯がある)割合は増加
- ・子どものむし歯本数は減少

参考

(岡山市国保特定健康診査データ H20~H23)
※H19年まで実施の基本健康診査より対象者限られ、健診受診者数も減少した健診結果を分析したものである。
※評価基準は、国が次期計画で示したものを使用している。

(1) 健康診査で血圧が高値の人の割合の減少

(3) 健康診査で血糖が高値の人の増加割合の抑制

(2) 健康診査で脂質異常の人の割合の減少

(4) 肥満の人の割合の減少

1) 血圧高値

I度高血圧以上の血圧高値のものは横ばいから減少傾向。血圧正常で治療中のものは男女70代、男性60代で増加。

(2) 脂質異常 (LDL160以上+服薬中)

男女とも60~70代増加傾向
男性はすべての年代で約20~25%。
女性は年代があがるにつれて増加。40代8%→70代47%

(3) 糖尿病有病者(治療中+ HbA1c6.1以上) ほぼ横ばい

(4) 肥満 (BMI 25以上)

男性・・・60~70代わずかに増加傾向。40~50代は約35%と割合は高いが変化はなし。
女性・・・60~70代わずかに減少傾向。年代が高くなるにつれて増加。

21推進宣言者数

個人・団体は栄養・運動・こころの分野での宣言者多い。中間評価以降、個人9000件、団体130件、施設164件が宣言した。

地域や団体の21推進事例集

地域や団体の取り組み紹介が58カ所から報告された。中間評価以降、こころの分野への取り組みが活発だった。地域での健康関連イベントやウォーキング大会の企画、実行などに積極的に取り組み、地域のつながりを実感しているという感想が多くみられた。

ソーシャルキャピタル

- ・地域活動への参加割合は、地縁的な活動、趣味の活動とも増加。
- ・ソーシャルキャピタルと主観的健康感との関連あり
 - 地域活動参加 地域活動に参加しているほうが健康感よい
 - 信頼感 人への信頼度が高いほうが健康感よい

評価

(評価指標)

基本方針

市民の主体的な健康づくり

目標値と実践項目設定の健康づくり

地域連携の健康づくり

推進年表

6地域でこれまでの推進活動を年表形式でまとめた。各地域で中学校区や小学校区単位の組織が立ち上がってきた。またH22年から「こころ」の分野の活動が盛んになり、学校などと新たな連携がとれてきた。

ものさし
組織関係図
推進年表
事例集
アンケート
21推進宣言者数
推進体制地図

ものさし

各地域、各保健センター、保健所のスタッフで話し合いながら現在の到達段階を自己評価し、今後の課題をメンバー全員で確認した。推進体制は中間時以降も整備されてきているという評価であった。これまで取り組めていなかった「こころ」の分野への取り組みが進んだ地域が多かった。企業や学校との連携が進んだ地域も一部あり、地域差がみられた。青年期・壮年期への取り組みが不十分とした地域が多かった。

組織関係図

地域で現在21に取り組んでいる組織や団体の、連携を強さ、連携の内容を示した図を31地区で作成。21活動によって、地域での様々な組織や団体(保健センター、ヘルスポランティア、町内会、公民館、大学・学校・園、企業など)がつながってきた。特に愛育委員会、栄養改善協議会とはほとんどの地区で21組織と強いつながりが持っていた。また今後つながりを持ちたい、もしくは強くしたい組織・団体が明らかになった。

推進体制地図

センター単位 6カ所の推進会議だけではなく、より住民に身近な小単位の組織づくりを目指し、中学校区単位21カ所、小学校区単位13カ所に推進組織が出来た。(中間評価時:中学校区単位15カ所、小学校区単位4カ所)